

家族心理学

～2017

科目コード

FC2515



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	平泉 拓

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、p.114「社会・集団・家族心理学B(家族心理学)」(科目コード：FC2541)を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p.114「社会・集団・家族心理学B(家族心理学)」(科目コード：FC2541)を参照してください。

■レポート課題

1 単位め	コミュニケーションの5つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明しなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題での提出は2018年9月で締め切りました。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

1単位め アドバイス

家族心理学と家族療法は家族のコミュニケーションを重視しています。ポール・ワツラウィックらは、これをコミュニケーションの語用論として概念化し、5つの「公理」を示しています。これはコミュニケーション理論とも呼ばれます。コミュニケーション理論のなかで最も重要な考えは、“拘束(Bind)”です。拘束とは、あるメッセージは一義的には受け手の反応を決定しないが、その反応の選択肢の幅を狭める、ということです。たとえば、「ばか！」と言うと、相手は「ばかとは何だ！」となるか、「どうしたの？」と反応します。ここで、急に踊り出すことは稀でしょう。このように、Aさんの行動は、無数にあるBさんの行動の選択肢を狭めることになり、さらには、Bさんの反応が無数にあるAさんの行動の選択肢を狭めることになります。したがって、コミュニケーションは“相互拘束”であると考えられます。このようなコミュニケーション観は、私たちが一般的に理解している「コミュニケーションはお互いに思想と感情を通わず相互理解である」という観点とは異なるものです。このような新しいコミュニケーション観によって、家族がどのような状態なのか、家族の変化はどのように起こるのかを検討することができますし、家族療法家はコミュニケーションを使って家族の変化を家族とともに考えていくことができます。

以上を理解したうえで、コミュニケーションの5つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明

してください。

課題については、テキストならびに関連参考書を読んで、丸写しにするのではなく、自分の言葉で理解された内容をまとめるように心がけてください。

2単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。